

# 里山再生

11

粉所里山オーナー会

会報 平成18年10月号

〒761-1703 高松市香川町浅野 3483-6

粉所里山オーナー会事務局

TEL・FAX087-888-3486

matsui3319@kzh.biglobe.ne.jp

第4回総会において「綾上町粉所東地区里山オーナー会」を「粉所里山オーナー会」に名称変更しました。

10月末というのに昼間は汗ばむような陽気が続き、なかなか涼しくなりません、そろそろ里山整備の本格的なシーズンがやってきます。昨冬、せっかくきれいにしていた区画も、ひと夏過ぎると元の木阿弥に、なんて方も多いのではないのでしょうか。皆さん、この秋・冬の里山整備の構想はもう練られていますか。

ところで、今回は私が趣味の溪流釣りを通じて感じた里山論を述べさせていただきます。四国の溪流釣りの対象はアマゴですが、天然物はあまりおらず、ほとんどが養殖魚の放流に頼っています。香川の人にはアマゴ釣りはあまりなじみがありませんが、徳島や高知の溪流では3月の解禁になると平日は地元の手練(てだれ)、休日は町の溪流マンがどっと押し寄せます。そのため毎年相当数のアマゴを放流しても早期に釣り去



メイン看板近くのコスモス

られてしまうので、5月以降はできるだけ人が入りにくい谷に行かなければなかなか釣れません。私の場合、たいていは車を置いて荒れた山道を30分以上辿って入渓します。しかし、どんな山奥に行っても要所々々には山道はついています。それは林業の作業道や四国電力の保線道、昔の生活道だったりしますが、険しいところには階段や石垣を築いていたり、崩落しているところにはパイプ組みの橋が架かっていたり、驚くほど山奥に神社があったりと、いつも感心させられます。そして谷に降りて釣りをしている最中にも昔の生活痕をいたるところで目にします。段々畑の石垣、古い取水堰・水路、そして川沿いにはたいてい歩道の跡が残っています。今では、ほとんどが植林されて杉林になっていますが、昔はそんな山奥でも谷沿いには民家が点在し、小さな畑で耕作もしていたのでしょ。昔はかなり奥まで里山と呼ばれていたのでしょうか。

5月に釣行した溪には、釣り終えた場所に廃屋がありました。恐る恐る中をのぞいてみると、少しレトロな農機具や冷蔵庫があり、10年くらい前まで生活していたような痕跡がありました。草ぼうぼうの庭には原付が捨てられてあって、こんな山奥の家まで道幅1m前後の山道をバイクで往来していたのかと思うと、山の人々のたくましさを感じずにはいられません。50年以上前は大家族が住み、にぎやかに暮らしていたに違いありません。子供たちはきつくて寂しい山道をてくてくと歩いて学校に通っていたのでしょ。そして、休みの日には虫を採ったり、すぐ横の溪流で魚採りをしたりして遊んでいたのでしょ。子供たちの笑い声とともに庭を駆け回る姿が脳裏に浮かび何かタイムスリップしたような不思議な気持ちになりました。



登山では意外と目に付きませんが、溪流釣りをしていると昔の生活痕をよく目にします。それはやはり人々が水の近くで生活していたことの証でしょう。そんな時、昔の里人の生活を想像すると自然の恩恵に感謝する心、自然への畏敬の念、家族のつながりなど現代社会が失った大切なものが思い浮かび、何か寂しいような、切ないような気持ちになります。

7月に釣行した溪では、たいへん苦しい思いをしました。要塞のようにそびえる堰堤(砂防ダム)や大滝・小滝をいくつも越えましたが、ぜんぜん釣れず、とうとう水がなくなる最源流部まで深入りしてしまい戻るのが大変でした。午後になると気温もぐんぐん上昇し目眩がするほどパテパテになりながら川を下り、やっと民家の青いトタン屋根が見えたときのうれしさといったらありません。奥山のピリピリする緊張感から解放され、人里に戻ってきたときの安堵感は何とも言いがたいものでした。このとき、里山には人に安心感を与え心を癒す作用があることを再認識させられました。確かに粉所の里山の棚田や民家を見ると何かホッとしますね。

私は里山は人間が自由気ままに活動する都市と神々が住む秩序ある奥山の中間点、人が自然を利用することが許された唯一の場所だと考えています。そこでは都市生活の影響を受けながらも自然と接している以上人間本意の傲慢な生活や活動は許されません。昔の文化や慣習を守りながら質素に暮らす人々だけが活動することを許された場所だと思います。こう考えると、里山で活動するときは襟を正し、謙虚な姿勢で取り組まなければならないと思います。

(松井 浩樹)

## 新入会員ご紹介

会員種別	区画番号・氏名	住所 職業 その他・特記事項	ご挨拶
正 会 員	27 井上 勲 	高松市香川町 リスク・マネジメント コンサルタント 養蜂の資格あり	草刈りって気持ちのいいものですね！草刈りは大好きです。刈払機専用の刃を研ぐ機械を最近購入しました。切れ味の良い刃で雑木を倒して早く憩いの森にしたいと考えております。きのこ栽培も勉強しながらエノキ、ヒラタケ、シイタケ、ナメコ等にも取り組みたいと思います。それから幻のマツタケにも挑戦したい。幸い頂上付近は赤松もあり手入れ次第では夢でないかも？趣味を同じくする方々との交流も楽しみにしています。よろしく願いいたします。
	28 井内 上  奥様と	高松市香川町 無職	2年余りに前に建設会社を退職しました。孫と山で遊びたいと考えています。入会して以来、竹伐りにはまっています。よろしく願いいたします。

## 里山オーナー制度行事報告

### 1. 共同作業(主なもの)

<p>・平成18年3月19日(日)</p> <p>【林道奥川沿いの樹木伐採、シイタケ・ナメタケの原木玉切り】 谷本様のお手伝いで、林道奥の水田に陰をしている樹木の伐採を行いました。川をまたいで伐倒したので運び上げるのに苦労しました。また、山桜やコナラはナメタケやシイタケの原木にするため、玉切りも行い、車で作業場まで3往復し運びました。約70本の原木(長さ1m)ができました。</p>			<p>伐倒した木が川底に落ちました</p> <p>川底で玉切り、ここから運び上げ</p>
<p>・平成18年4月16日(日)</p> <p>【シイタケ・ナメタケの植菌】 3月19日にできた原木に植菌しました。原木にドリルで穴を開け、クヌギやコナラにはシイタケ、ヤマザクラにはナメタケの駒菌を木槌で打ち込みました。シイタケ・ナメタケのほだ木が各30本出来上がり。その後、仮伏せしました。参加者が多かったので、短時間でできました。</p>			<p>ナメタケの植菌</p> <p>ナメタケの仮伏せ</p>
<p>・平成18年6月18日(日)</p> <p>【山すその草刈り】 草刈りは里山の必須作業です。当日は、旧区画から新区画の山すそまで広範囲を刈払機やカマで草刈りました。</p>		<p>・平成18年9月17日(日)</p> <p>【シイタケ・ナメタケ本伏せ】 本来は6月ごろの作業でしたが、遅ればせながら9月に行いました。ナメタケは、来年秋から収穫できます。</p>	
<p>・平成18年10月8日(日)</p> <p>【貞重自治会道路草刈り協力】 谷本様の自治会の皆さんとの初交流。いつも自由に通行させていただいている町道の草刈りに参加しました。貞重自治会員約15名、里山オーナー会員7名で夫婦神橋から最終集落までの約1.5km区間の草刈りと後片付けを行いました。谷本様の自治会でも過疎化が進んでおり、いつも少人数で4・5時間かけて行っていたのですが、我々の参加でいつもよりかなり早く済んだと喜んでいただけました。</p>			

## 2. その他

### ・植樹 平成18年3月30日(木)

「財団法人かがわ水と緑の財団」より新区画整備のため平成17年度「森林づくり事業」の助成金10万円を頂くことになり、刈払機1台と植栽用苗木(コブシ・クリ・ウメ・モミジ・ユキヤナギ)を購入しました。この日



は会長の塾の小学6年生10名の卒業記念植樹もかねて上記苗木30本余りの植樹をしました。別所さん、谷本光男さんのご指導のもと、子供たちが急斜面に悪戦苦闘しながらも丁寧にしっかりと植え付けをしました。すでに2度下草刈りを行い、順調に生育しています。お楽しみは春の梅の花と秋のモミジの紅葉です。

### ・ヤマザクラと整備が進む新区画



一昨年、17区画下の山すその整備中に現れたムクの巨木に驚きましたが、昨年秋からの新区画整備により24区画に現れたヤマザクラは幹周4m弱、全高約20m、太い枝を四方に広げたとてつもないデッカイものです。昨年までは、うっそうと茂った

雑木・竹の上にかすかに花が見えていましたが、今年は整備された新区画で大空をバックに満開の花を見事に披露してくれました。さすがに「桜は山桜」といわれるだけに美しいですね。真下に6畳ほどのデッキも出来上がり、里山の新名所ができました。

### ・賢治の会 平成18年5月22日(月)



昨年の5月に「宮澤賢治を学ぶ会」の研修会を当里山で開催し、「シダレザクラ」を記念植樹しました。今年は午前中、高松市内での研修会を済ませて、岡屋先生と会員の方10名が再訪問しました。今春、初めて咲いたお花をいろいろ見学した後、24区画の出上がったばかりのデッキを拝借して簡単なお茶会を催し、緑の薫風を満喫しました。

### ・野菜畑



・ナンキン

・スイカ

・ゴーヤ

・オクラ

・サツマイモ

三木さん・組橋ご夫妻がガンバッテいる野菜畑は今年も豊作です。三木さんはスイカに挑戦し、小振りながらも甘くて美味しいのが生りました。組橋さんのゴーヤも昨年に劣らない実りでした。

### ・棚田のお花畑・・・アサガオ、ヒマワリ、コスモス



アサガオ・ヒマワリは三木さん、コスモスは別所さんが育てました。アサガオは高さ2m、幅20mのネットに赤・青・白の大輪の花が沢山咲きました。ヒマワリは昨年の三分の一ぐらいの本数でしたが、アサガオ

とよくマッチしていました。コスモスは狭い場所でしたが、100本程苗を植えました。白花が多いので清楚な感じを与えてくれました。

・春爛漫・・・桜に囲まれた谷本邸  
新区画のヤマザクラに劣らず谷本様の自宅や作業場の周りのソメイヨシノも見事でした。



・実りの秋・・・クリ  
桃栗三年、柿八年のことば通り、太巻さんが3年前19区画下に植えた栗の木に見事な大粒の実がなりました。



### 3. 第4回総会・懇親会 平成18年5月28日(日)

第4回総会議事録 出席者16名 陪席6名

1. 平成17年度事業報告・会計報告...総会欠席者のみ別紙参照
2. 役員選任 【会長】 松井 浩樹 留任 【副会長】 別所 紘 留任  
【総務】 太巻 寛 留任 木谷 政夫 新任  
【監事】 組橋 和浩 留任



#### 3. 会の名称変更

「綾上町粉所東地区里山オーナー会」の名称は、綾上町が綾川町になったことや長すぎるといった理由などから全会一致で「粉所里山オーナー会」に名称変更しました。

4. 会則・諸規則の改定...ありませんでした。
5. 平成18年度事業計画・予算...総会欠席者のみ別紙参照
6. 契約期間終了後について  
...時間の都合で十分な議論ができませんでした。
7. その他・意見交換  
...時間の都合で十分な議論・意見交換ができませんでした。



総会・懇親会とも「三木町鹿庭地区」里山オーナー会の役員・関係者様3名が陪席・参加されました。

総会終了後の懇親会では早朝から太巻さん、平井さん、谷本光男ご夫妻が中心となり準備していただいた煮込みうどん、炊き込みご飯、スペアリブの焼肉、ハチクの姿焼き?などをおいしくいただきました。

## TOPICS 平成17年度募集の三木町鹿庭地区・さぬき市鴨庄地区について

里山オーナーの皆様、はじめまして。県の森づくり・緑化担当は4月の人事異動により、引き続いて森が、新たに安藤、岡、蓮池、石丸が加わりました。よろしくお願ひします。さて、里山オーナー地区は平成17年度に2地区募集し、現在、県下で6地区となっています。17年度募集地区のひとつである三木町鹿庭地区には18区画が設定され、現在11名(9月11日現在)のオーナーさんが活動しています。特徴は平均傾斜が他地区に比べてやや急なこと、近くに乳牛の牧場があることです。牧場の方には駐車場、会議場所の提供などをしていただき大変お世話になっています。さぬき市鴨庄地区には13区画が設定され、現在6名(9月11日現在)のオーナーさんが活動しています。鴨部川から東へ入った北向きの斜面です。里山整備後には瀬戸内海が望めるのではと思われる区画がいくつかあります。6月には駐車場脇の山中にカニが見つけた。写真のカニは白っぽいですが真っ赤なカニもいて、水がないのにどうやって生きているんだろう?と驚きました。皆様の地区ではシカやイノシシに遭遇するそうですね。普段の生活にはない新鮮な驚き、これも里山の恵みだと感動したものです。両地区ともまだ空き区画がありますので、皆様のお知り合いの方に紹介していただくと有り難く思います。これからの季節、お気を付けて秋の里山を楽しんでください。(香川県みどり整備課)



山の中でカニ発見!(さぬき市鴨庄地区)

# やまつつじ

和名 山躑躅 英名 adventure azalea

暑かった夏もようやく終わり、やっと涼しい秋になりましたね。でも、この季節の里山は、春に切ったはずの下草や竹が、夏の間をしっかり復活して元に戻ってますから、皆さん、気を取り直してまた頑張りましょう。



さて、季節的にずれているのですが、私たちの里山では4月頃に「やまつつじ」が満開になり、少し薄暗い山の中で鮮やかな朱色が目にしみる、まるで桃源郷のような感動的な光景が広がります。残念なことにきれいに咲いている日にちが短いため、私のように月に2、3回の里山通いではなかなかピーク時には遭遇しにくく、今年の春、3年目にして初めて見ることができました。

ところで「つつじ」って漢字で書くと「躑躅」となるのですが皆さん知ってましたか？音読みすると「てき ちょく」と読み、「足踏みすること。しゃがむこと。ためらうこと。」という意味で、羊が「つつじ」を食べると毒にあたって倒れることから来ているらしいです。(真偽の程は定かでないので人に言わないでください。)何はともあれ、春になったらまた見たいものです。 (20番 組橋 和浩)

\*\*\*\*\* **オーナーさんご紹介** \*\*\*\*\*

今回は 区画 湊 丈三さん です。



下刈りと灌木の間引きをして少しすっきりしました。



コープかがわの仲間たち。

区画の湊です。平成15年度「里山オーナー制度」の募集があったとき、コープかがわの組合員代表地域理事をしていたので、この里山がエリア内にあり、独自のエリア活動を進める中で借りることにしました。山仕事をしたことのない素人で、しかもはじめは足の踏み場もないヤブ状態でしたので「これは人海戦術しかない！」と時候のよい時期に友人やコープの職員さん(共同購入を配達しているお兄さん?)と約20名くらいで何度か作業をしに来ました。コープの職員は日・月曜日が定休日なので、それに合わせて午前中約2時間作業し、お昼はおにぎりやしっぽうどん、豚汁などを現地で作り、みんなで食べて解散します。参加した人たちからは「ストレス解消になる」、「日頃なかなか体験できないことができた」、「自然の中で空気がおいしい」、「山で食べるごはんはおいしい」と喜んで毎回参加してくれる人もいます。しかし、私自身は最近ぜんぜん行けていません。オーナー会の集まりで下の会場までは行っても、自分の区画まで行けずに帰ってしまう...という状態です。

2年前にコープの理事の任期も終わったのですが 区画の代表になっているので引き続き「里山担当」としてがんばります。今後の作業の予定としては、急斜面の手入れ、階段の手直し、大きな山桜の周辺の広場づくりなどを考えています。

四季によって変わる里山、また里山まで行く道中で癒されます。また、谷本さんや他の会員さんが多趣味なのでいろいろ教えていただくことが多いです。これからもよろしく願いいたします。

編集部から：区画の番号順に「オーナーさんご紹介」をしてあります。自己紹介、整備の進行状況、今後の予定などご紹介ください。里山以外でも自然に関する趣味・活動などを紹介していただいてもかまいません。形式にはこだわりません。自分で書かれてもかまいませんし、編集スタッフによるインタビュー形式でもかまいません。次回は 区画 太巻さんの紹介です。



# 野山の草花

前回会報から季節が春・夏・秋と三シーズンも経ちました。準備してあるお花はあれもこれも紹介したいのですが、とりあえずそれぞれの季節取って置きのお花一点にしばりお話しをお届けします。

**(1) シロバナショウジョウバカマ(白花狸々袴) 多年草/花期 3～4月** このお花は平成16年3月発行の5号で紹介済みですが、あえてお話しさせていただきます。昨年暮れから今年のお正月にかけて寒さか厳しく、雪の降る日もありましたが、そんなある日里山のある場所で十数年前琴南の山中で見っていたあるお花の葉



によく似ているものを見つけました。ツボミが見えるまで何度もその場所を覗いていました。やっと3月初め白いツボミが現れました。思っていた通り「ショウジョウバカマ」でそれも「シロバナ」でした。小生としては里山四年目の大感激です。お花が咲き出すと、奥へ続く道沿いの川の山際の斜面の水辺に近いところになかなか範囲で群生していることがわかりました。花は開花後も花茎が写真右下のようにかなり伸びていき、そのまま枯れた状態になります。

**(2) イワタバコ(岩煙草) 多年草/花期 6～8月**



渓谷の沢沿いの岩場に自生し、春から夏にかけて大きな長楕円形の葉(写真右上)を展開させる。この葉が煙草の葉(写真右中)に似ていることと、自生環境の「イワ」が組合わさってイワタバコの名前がついた。6～7月に長さ10cmほどの花茎を出し、紅紫色の美しい花(写真左下)を数個つける。真夏に料亭・旅館の玄関に浅い鉢植えのものが飾られている風情は何ともいえないものです。香川県内でも少し深い山間の渓谷で見ることができます。しかし、この夏、松井会長にご一緒して穴吹川や貞光川の支流の渓谷(写真左上)で見たものはけたはずれにすばらしいものでした。ついでに煙草の花(写真右下)に、今年初めてお目にかかることができました。まわりの水田の田植えが始まる前の煙草の畑に高さ1～2mに30～50cmの葉をつけた煙草にピンクの可愛い花を数個つけています。花は直ぐに摘みとられるので、目にかかれるのは稀です。

**(3) セイタカアワダチソウ(背高泡立草) 多年草/花期 10～11月** 里山へは高松空港の道路を車で通



るのですが、秋の深まるこの時期は写真の様に道路の斜面に終りをつけるススキに代わって、黄色のごく小さな花(写真下中)を大きな円錐状の花穂(写真下左)にぎっしりと咲かせ、群生して咲き、咲く花の少なくなる秋に素晴らしい黄金色の海原の景観を見せてくれます。名前の由来は草丈が高く、黄色い小さな花が泡立つ(写真下右)ように見えることからきています。その「泡立ち」晩夏から秋にかけて野山に咲く「アキノキリンソウ」別名「アワダチソウ」の花の様子が、お酒が発酵するときに生じる泡に、豊かに盛り上げる花のさまをみたてたものだそうです。かなり以前、繁殖力の強い帰化植物であるこの花の花粉が花粉喘息を起こすとして、悪玉扱いにされていたが、最近では花粉の飛散のしないことやスギの被害のひどいこと等で、無害説が有力になっていきます。しかし、そのはびこり方は尋常ではありません。この花の紹介には丁度いいタイミングでした。(別所 紘)

## アウトドアよもやま話

### 溪流釣りの魅力

プロローグの続きようになりますが、このコーナーでも溪流釣りを取り上げさせていただきます。今年の春から夏は里山のほうは少しお休みさせていただいて、私の一番の趣味の溪流釣りに没頭させていただきました。5～9月で約30回、徳島県の穴吹川や貞光川の谷へ通いました。腕が悪いので釣果はさっぱりでしたが、普通のアウトドアでは味わえないようなスリルと狩猟感覚を体感でき、改めて溪流釣りの魅力に取り憑かれました。

今年印象に残った釣行を挙げますと、まず穴吹川の源流部で日没寸前、見事大物をゲットしたことです。森さんと最初の谷で朝7時から釣行しましたが、森さんが1匹釣っただけで、私のほうは当たりすらほとんどありません。午後3時、移動して別の谷を攻めましたが、そこでも釣れません。川から戻って来て養殖場のおばあさんと話していると、「うちの息子は、仕事から帰ってからちょっと行ってくるわ言うて、1時間余りで家族が食べる分くらい釣ってくるで。暗くなるころ毛鉤(けばり)でやっとなわ。」とのこと。もう夕方6時過ぎ、朝からずっと釣りのしっぱなしで疲れていましたが、それを聞いて俄然やる気が湧いてきました。もう帰宅気分の森さんに頼み込み、またまた移動してさらに山奥の小さな谷に入りました。普段はミズの餌釣りですが、おばあさんの言ったとおり毛鉤でやってみることにしました。最初は何度投げても反応がありません。15分くらいたって少しずつ暗くなると、小さな10cmくらいのアマゴが5・6匹、毛鉤を追い始めました。何匹か釣り上げましたが、その後も何度でも追いかけてきます。はりをはずすのが面倒くさいので、食いつきそうになれば毛鉤をさっと引いたりしながら遊んでいると、さらに暗さが増し、小アマゴや毛鉤が黒い影にしか見えなくなりました。すると、いきなり大きな影が現れしばらく定位したまま毛鉤を眺めていたと思いきや、いきなりガバッと水面を割って毛鉤に食いついてきました。してやったり、慎重に引き上げはりをはずし魚籠に収めました。当日ラストチャンスで意地のゲット。我ながら会心でした。しかし、気づいてみると回りは真っ暗、車までは100mほど斜面を登らなければなりません。電池切れ寸前のヘッドライトのともし火をたよりに這いながら斜面を登っていきました。森さんは車で待っていて、非常に心配してくれていましたが、私は興奮冷めやらず、魚籠からいま釣ったばかりのアマゴを取り出し自慢げに見せました。まるまる太った良型でした。

次に徳島県の三嶺(1893m)のふところを流れる祖谷川支流の四ツ小屋谷での単独釣行です。前夜からワクワクして一睡もできないまま午前3時ごろ家を出発しました。登山口への林道は通行止めになっていましたが、まだ暗かったので誰も見ていないと思い、そのまま車で進入。途中かなり荒れていましたが、何とか林道終点の登山口までたどり着きました。普通の人はこちらから三嶺に登るのですが、「こんなにはるばる有名な三嶺の登山口まで来て、上らずに逆に下って谷に降りるのは我ながら天邪鬼だな。これってすごい贅沢。」なんて考えながら、一人でほくそ笑んでいました。午前6時、登山口から下山して四ツ小屋谷に入りました。



これだけ釣れたら大満足(穴吹川源流)

穴吹川や貞光川の谷沿いはほとんどが人工林ですが、ここは見事な原生林。ブナやカツラやモミ、ケヤキの大木がいたるところにそびえています。早速ニホンジカの親子3匹が偵察に来ました。子ジカが「ミャー、ミャー」と警戒音を発します。カメラを向けると逃げていきました。すばらしい溪相の中をどんどん釣り上がります。しかし、小さいのは時々釣れますが、塩焼きにできるようなものはなかなか釣れません。しばらく上ると川が三ツ又になっていました。どの溪を選ぶかで釣果が大きく左右されます。結果的に、3本すべてを釣行することになるとはつゆ思わず、とりあえず一番水量の多い溪に入りました。しかし、ほぼ源流まで1kmほど上っても状況は変わりません。トリカブトの大群落を発見したものの、肝心のアマゴは魚籠に収まりません。出合に戻って来て今度は2番目の谷に入りました。そこは

途中からガレ場やザレ場の連続です。三嶺山腹の崩落した土砂が流れ込み、アマゴも全部埋まってしまったのでしょうか。そこでは小物すら釣れずにまったくの無駄足になってしまいました。

2番目の溪から下りてきて午後3時、時間も微妙だし、疲れてきたし、あと一本の溪はどうしようか迷いました。しかしここまで来て手ぶらで帰るわけにはいきません。頑張っただけの最後の一歩を踏み出しました。相変わらず最初はぜんぜん釣れません。どんどん水が少なくなりあきらめムードになってきました。ところがある場所から急に当たりが出始めました。そこからは量1・2量ほどの淵ごとに18cm前後のアマゴが釣れました。タライくらいの小さな淵で大物をかけましたが、水から抜き上げた途端はりがはずれてしまったのでお帰りなさいました。手を突っ込んで岩の下を探りましたが、どこにもいませんでした。不思議なことに結局釣れたのはその辺りのほんの50m区間だけで、何とか20cmほどのアマゴを2匹と途中で拾ったシカの角を持って帰りました。帰り道、今度はカモシカが見送ってくれました。入渓地点に戻ると胸を突き上げるような上り坂が待っていました。疲れた体に鞭打って這うようにして登り、やっと車にたどり着きました。夕方6時、12時間の釣行でした。そのまま、剣山の見の越経由で帰りましたが、さすがに睡眠不足と疲労で眠気が襲ってきて、途中車を止めて30分ほど仮眠してから午後9時に帰宅。長い1日でした。しかし、溪流釣りはいつ行っても非日常的な体験ができて本当に楽しい趣味です。

(松井浩樹)



美しい溪流で何もかも忘れて竿を出す(森さん・貞光川支流)

# 11～12月の行事

**[定例共同作業]...11～3月は月2回(第1土曜日・第3日曜日)**

- ・11月4日(土)...共用歩道の整備・修繕
- ・11月19日(日)...新区画下山すその整備
- ・12月2日(土)・17日(日)...旧区画山すその整備 来年1月以降は整備されていない区画の整備に着手します。

## 共同作業実施要領

**(日時)固定** 第1土曜日【午後3:00～5:00】 第3日曜日【午前10:00～12:00】

**(準備物)** 各自の山仕事道具、防寒対策、飲み物

**(申し込み・その他)** ・お申し込み不要。ご自由に積極的にご参加ください。  
 ・雨天中止(順延なし)。小雨または天候微妙な場合は各自の判断にお任せします。  
 安全にはくれぐれも注意してください。近接作業・上下作業は絶対に禁止。

**お願い** ...共同作業参加者の顔ぶれがまた決まってきました。新区画の方は積極的に参加されていますが、旧区画の方の参加が少ないようです。11月から月2回になりますので、月1回はできるだけご参加ください。お忙しいとは存じますがなにとぞ協力お願いいたします。

## がんばった人(区画順、敬称略)

	月日(曜)	作業内容	参加者
共同作業	2/19(日)	新区画山すその整備	谷本(光)夫妻、別所、黒田、太巻、三木、松井、山下夫妻、井上(美)、木谷平井、森、谷本(節)様
	3/4(土)	新区画山すその整備	谷本(光)、別所、太巻、松井、井上(美)、吉岡、川崎、森、藤谷(川崎ご友人)、谷本(節)様
	3/19(日)	林道奥川沿いの樹木の伐採と片付け、シイタケ・ナメタケの原木玉切り	別所、太巻、松井、吉岡、堀内、川崎、井上(勲)、井内、吉村(川崎ご友人) 谷本(節)様
	4/1(土)	シイタケ原木天地返し 苗木の支柱立て	谷本(光)、別所、松井、井上(美)、井上(勲)
	4/16(日)	ナメタケ・シイタケの植菌	十川、谷本(光)、黒田、松井、三木、勝井夫妻、井上(美)、川崎、井上(勲) 井内、森、吉村(川崎ご友人)、中井(松井ご友人)
	5/21(日)	新区画下の竹の片付け	十川、谷本(光)、太巻、松井、井上(美)、木谷、井上(勲)、井内
	6/18(日)	新区画下山すその草刈り	谷本(光)夫妻、別所、太巻、三木、松井、山下夫妻、井上(美)、川崎 井上(勲)、井内夫妻、藤谷・吉村(川崎ご友人)
	7/23(日)	新区画下山すその草刈り	谷本(光)、太巻、松井、井上(美)、井上(勲)、井内
	9/17(土)	シイタケ・ヒラタケ本伏せ	谷本(光)、別所、三木、松井、井上(美)、木谷夫妻、井上(勲)、井内、谷本(節)様
	10/8(日)	貞重自治会道路草刈り協力	谷本(光)、太巻、松井、井上(美)、木谷、井上(勲)、井内
奉仕作業	<b>三木さん奉仕作業...アサガオ・ヒマワリ栽培、車道・林道の草刈り、共用歩道・畦道等の草刈り、谷本(節)様棚田の畦草刈り、薪割り、ログ倉庫周辺整備・清掃など多数</b> <b>三木さんは来られた時はほとんど毎回奉仕作業をされているので、申し訳ありませんが全てを把握できていません。</b>		
	<b>新区画下山すその伐採竹焼却(3～4月の平日数回)...別所、太巻、三木、松井、井上(勲)、井内夫妻、谷本(節)様</b>		
	<b>27区画下整地・駐車場づくり(3月)...井上(勲)、井内</b> 井内さんが重機を使って見事に整地してくれました。		
	<b>シイタケ植菌(3月26日)...太巻、三木、松井、谷本(節)奥様</b>		
	<b>新区画下植樹(3月29日)...谷本(光)、別所、松井、学習塾の生徒(小6生10名)</b>		
	<b>総会後懇親会料理・配膳お手伝い(5月28日)...別所奥様、黒田奥様、山下奥様、組橋奥様、谷本(光)奥様、森様(別所奥様ご友人)</b> <b>ユスモス植栽(5月30日)...別所夫妻、松井、佐々木(別所奥様ご友人)</b> 奉仕作業をされる方は事前に事務局までご連絡ください。また、奉仕作業されている方を見かけたら事務局までご連絡ください。		

編集後記： 7月に剣山に登ってきましたが、季節のお花が咲いていません。鹿の被害にあったそうです。また、最近人が頻りにクマに襲われるニュースを見ます。ヒガンバナがお彼岸の後で満開に咲きました。どこか自然はおかしいですね？ でも我々の里山では「シロバナショジョウバカマ」を見ることができました。「里山再生」ガンバリましょう。(別所 紘)  
 会報発行が遅れてすいません。去年はいろいろやりすぎたので、今年のはんびりやろうと思っているとついつい肝心なことまで遅れてしまいますね。反省。さあ、またまた山仕事のシーズンがやってきました、ストレス解消・健康維持のため休日には里山に来て思い切り体を動かしましょう。(松井 浩樹)